

イオンでの職場体験の報告 (概要)

- 1 日時 平成23年11月16日(水) 17日(木) 18日(金)の3日間
- 2 場所 イオンマリンピア店(稲毛海岸)
- 3 内容 (一般新入者研修と同一内容で実施)

	午前	午後
11/16(水)	自己紹介、イオンの基本理念	基本応対、身だしなみとあいさつ
11/17(木)	挨拶の復習、お客様への対応について	売り場実習(品出し、整頓、お客対応)
11/18(金)	売り場実習(品出し、整頓、お客対応)	売り場実習(品出し、整頓、お客対応)

4 事前・事後の調査から

<スケーリング・クエスチョン 今の自分の気持ちを10点満点で自己評価した> 最も悪い0点、最も良い10点

【表1】

	事前	事後	変化
全体	5.60	7.80	↑



◎職場体験後全ての生徒の気持ちが高まった!

今の自分の気持ちを10段階刻みのスケール上に示す、スケーリング・クエスチョンを職場体験前の事前指導段階と職場体験最終日の段階でその気持ちの違いを測った。その結果【表1】、気持ちが下がった生徒はなく、すべての生徒が、同じ、もしくは上昇した。この結果、生徒の気持ちという視点で判断すると、職場体験を終えた段階で、「大変だったけどやり遂げた」「頑張って仕事ができるようになって本当にいい経験をした」などの高揚感や達成感、「3日間楽しかった」「また職場体験をしたい」などの満足感などが振り返りからも読み取れた。

<配慮と主張のソーシャルスキルについて、各8項目 5段階で自己評価した>

【表2】

	配慮事前	配慮事後	変化
全体	3.47	3.64	↑

	主張事前	主張事後	変化
全体	3.64	3.46	↓



○配慮・相手の状況を理解して気配りするスキル ○主張・自らのことを正しく伝えるためのスキル

◎配慮スキルの上昇・・・職場体験で学んだことは、相手の立場で接することの必要性!

全生徒の配慮得点と主張得点について、職場体験実施前は【配慮<主張】と主張得点が高くなったが、職場体験後は、その傾向は逆に【配慮>主張】という結果になった【表2】。

当初の予想として、不登校児童生徒は【主張<配慮】の傾向を予想していた。そして、職場体験後は【主張>配慮】を予想していた。しかし、結果は逆傾向として示された。この結果から、職場体験に参加できる生徒は主張のスキルが配慮のスキルより高い生徒であった。この生徒たちが、3日間の職場体験を通して、「何かを頼む時、相手の迷惑にならないか考えます」「話をする時は、相手の気持ちを考えます」といった配慮のスキルが高まった傾向が見られた。このことは、イオンで行った「お役様への対応」などの研修が生かされた結果と考えられる。また、主張得点においては、「相手に聞こえる声で話します」といった主張項目について、実際の売り場では大きな声を出せなかったことなどが反映していると考えられる。

今回参加した生徒は、ライトポートや教育センターのグループカウンセリング活動には通級しているが、原籍学校へ通学することはできていない。しかし、職場体験活動の様子をみると、社会性や人間関係能力がないわけではなく、原籍する学校では十分にその力を発揮することができずに、それぞれの理由で不登校の状態になってしまったと考えられる。多くの子どもたちは場を与えられれば十分にソーシャルスキル能力が高まるのが今回わかった。その意味からも、学校だけでなく社会全体で子どもたちを支援していただけたことは大変有効である。今後もイオンとの包括提携協定の意義を活かしながら、この事業を進めていきたい。